

令和7年度第2回 品川区総合教育会議 次第

令和7年12月9日(火)午後4時00分～

品川区役所本庁舎5階第五委員会室

司会進行：区長室長

1. 開 会

2. あいさつ 区 長 教育長

3. 意見交換 【テーマ】区が目指す今後の学校支援について （1）教育委員会委員からの協議事項について

（2）次回の総合教育会議に向けて

4. そ の 他

5. 閉 会



2025.12.9 総合教育会議

区が目指す今後の学校支援について
(品川区事例を含む)

地域と連携した教育支援の新たな方向性

主体的に行動する子どもの育成



現状と課題



主体的・対話的で深い学び

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を重視しているが、実践には指導者の力量差が存在する。

教員研修とICT活用の課題

教員研修やICT研修の充実が、効果的な学びの実践につながる。

新しい評価方法の必要性

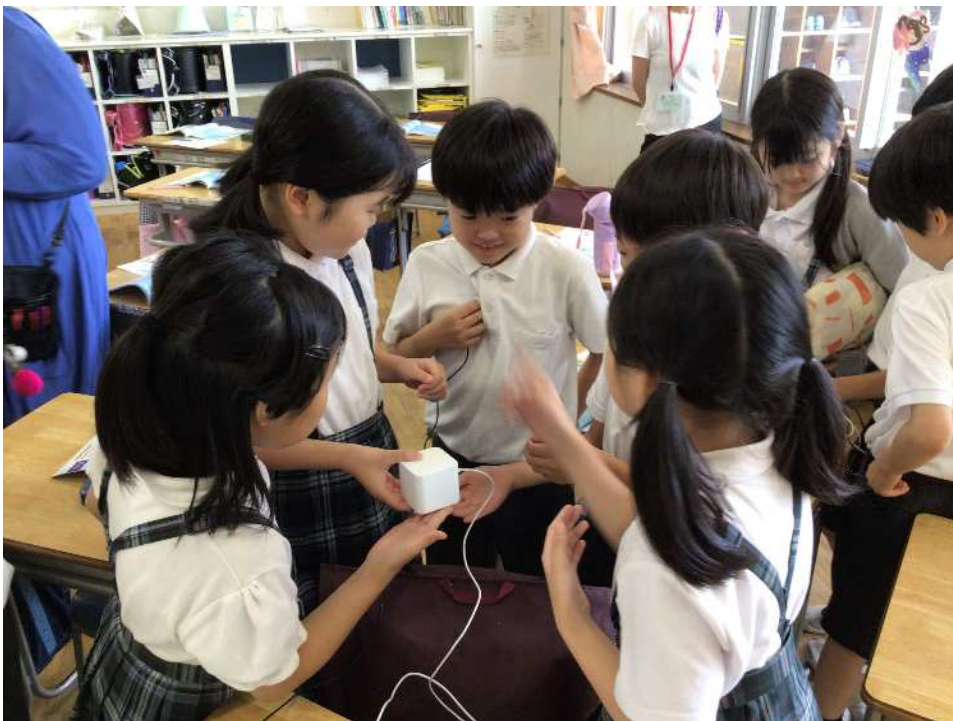
主体的な学びを評価するためにポートフォリオやルーブリック評価などの新手法が求められている。

体験活動と地域連携の重要性

子どもの主体的学びには、体験活動や地域連携が不可欠



品川区の事例と方向性



ウェルビーイング教育とレジリエンス

品川区は子どもたちの心身の健康とレジリエンスを育む教育を重視している。

ICT活用と地域連携

ICTを使った学習支援と地域資源との連携で学びの環境を整備している。

ダイバーシティ&インクルージョン

多様な背景の子どもたちが互いを認め、協働する力を育てている。

市民科を中心とした探究的な学びのモデル

品川区の教育は市民科を中心とした探究的な学びのモデルケースを構築中



自由進度學習



自由進度学習とは

中央教育審議会2021年1月答申

「令和の日本型学校教育の構築を目指して」で示された**「個別最適な学び」と「協働的な学び」**を実現する先行的な実践として注目されている学習スタイルの1つ。

自由進度学習は、教師が計画する学習内容のフレーム内で、子ども一人一人が課題を**自己決定し、計画を立てて自分の学習速度で進め、その過程で友達と相互に作用しながら学びを深めていくこと**を目指したもの。

自由進度学習の特徴

子どもが自分のペースで学習できる形態で、個別最適化が進展している。

課題と管理負担

学習管理の負担や評価規準の不明確さが課題となっており、解決策が必要

教師の役割の変化

教師は教える役割から学びを支援する役割へ変わり、研修と教材開発が重要

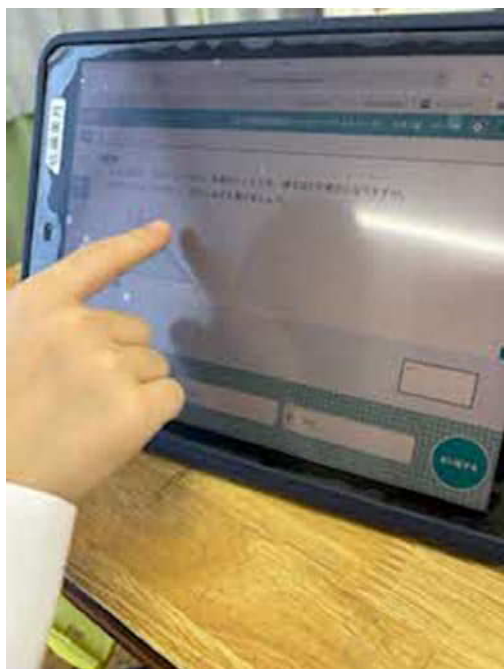
進度管理の仕組み

学習指導要領と整合しながら進度を管理するシステムの導入が求められる。



品川区の事例と方向性

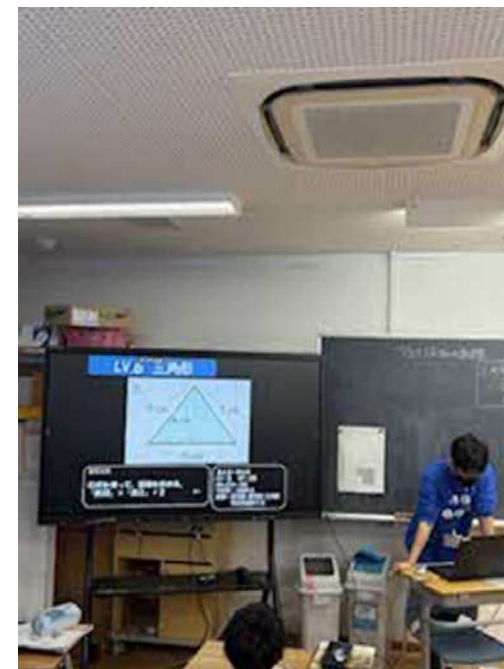
品川学園の取組



ミライシード



ベーシックテスト棚



教師による
レベルアップ問題



品川区の事例と方向性

鮫浜小学校の取組

第6学年 社会科学習指導案

令和6年12月11日(水) 5校時
第6学年1組 29名

研究テーマ
一人一人が分かる授業づくり ～多様性に応じた学級経営をもとに～

高学年分科会の目指す児童像
○資料を正確に読み取る児童。
○資料を読み取る視点を身に付ける児童。
○読み取って分かったことを表現する児童。

1 単元名
「世界に歩みだした日本」(6時間扱い)

2 単元の目標
○大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、様々な人物が活躍したことによって我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

ロイロノートを活用した学習計画表

江戸幕府と政治の安定		学習問題 どうして江戸時代は約260年間も続いたのだろうか。 *毎時間提出します。先生から返却されたカードに毎時間書き足していきましょう！(スタンプを4つ集めよう!!)			
学習計画 *自分で調べるに合わないと思ったら、他組にしたり次の時間に急ピッチで調べたりして、終わるように計画しましょう。		ふりかえり(基本的に授業内に提出すること。できない場合は、次の日の朝まで。) *②は50字以上で入力すること。			
教科書 P.76～P.87 資料集 P.66～P.73	自分の課題	学習形態	① 今日行ったこと・わかったこと (ノートの得意とメモ)	② 問題の解決にむけて役立ったこと (問題に対する自分の考え)	③ 先生に相談したこと (商量してもらいたいもの)
1	・オリエンテーション ・学習計画を立てる。	一斉学習 ↓ ひとり			
2	調べ学習				
3	調べ学習				
4	調べ学習				
5	学習問題に対する 考えをまとめる。 プレテスト	ひとり ↓ グループ ↓ 全体	【単元を通じた学習感想】		

品川区の事例と方向性

一貫教育の推進

品川区は義務教育9年間の一貫教育を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指す。

ICT活用の学習プラットフォーム

ICTを活用した学習プラットフォームで、子どもの学習進度や興味に合わせた学びを実現を目指す。

教員負担の軽減

学習計画表や自動採点システムの導入により、教員の負担を軽減し効率化を図る。

自由進度学習の効果

自由進度学習は「自己決定」「自己選択」「学び合い」を重視し、子どもの主体性を高める。



不登校支援



不登校とは

長期欠席者（年度内に30日以上登校しなかった者）のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しない
あるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く。）。

本区の実態

・不登校児童・生徒数は著しく増加

5年前との比較で児童は5倍弱、生徒は2倍以上。
10年前との比較で児童は7倍以上、生徒は約3倍。
平成30年度を境に急増。（コロナ前から予兆あり）

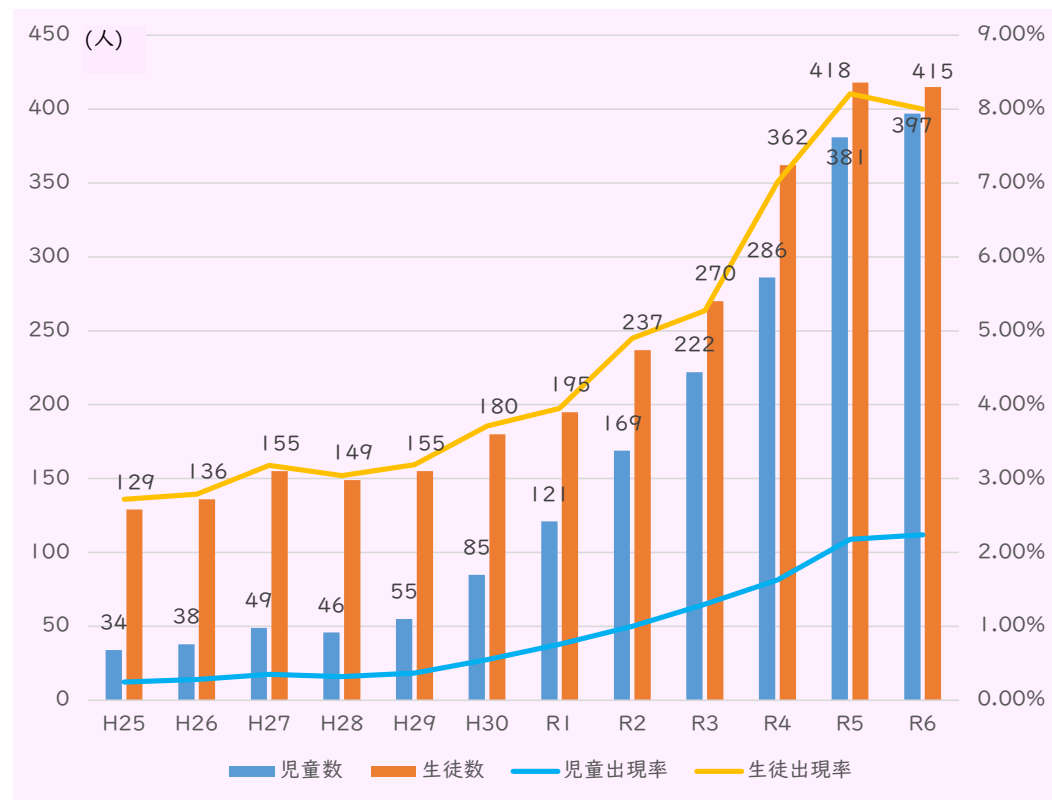
・4年生から不登校になる児童・生徒が増加

9年生では減少する傾向がみられた。

・不登校の相談事実*は「学校生活にやる気がでない」が半数 次いで、児童は「生活リズム不調」、生徒は「不安・抑うつ」が多い。

・マイスクール通室者は、不登校全体の12.9%程度

児童は7.3%、生徒は17.9%（R5）



不登校とは

本区の実態

長期欠席者（年度内に30日以上登校しなかった者）のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く。）。

不登校児童・生徒数（学年別）



不登校の相談事実（令和6年度上位3項目）

児童

- ① 学校生活にやる気がでない(83)
- ② 生活リズム不調(82)
- ③ 不安・抑うつ(77)

生徒

- ① 学校生活にやる気がでない(79)
- ② 不安・抑うつ(78)
- ③ 生活リズム不調(70)

※生徒は「該当なし」が114で一番多い

マイスクール通室者数(令和6年度)

	3年	4年	5年	6年	児童計	7年	8年	9年	生徒計	合計
八潮	2	1	4	2	9	2	4	6	12	21
五反田	-	-	2	1	3	6	9	7	22	25
浜川	-	-	-	-	-	2	4	2	8	8
西大井	6	3	5	3	17	6	4	7	17	34

～多様な学びの場を提供し、誰一人取り残さない学びを目指す～

1 教育支援センター 「マイスクール」運営

4 か所の居場所および学習支援を実施するマイスクールを運営していく。

・五反田、浜川、八潮、西大井

【昼食支援】**新規事業**

マイスクール八潮・西大井において、1 日授業日に仕出し弁当の無償提供を行う。

- ・開始時期：令和7年6月末(八潮)・9月(西大井)
- ・課題等：通室できない児童・生徒の廃棄食材を減らす取り組み。

2 校内別室指導支援員の 配置および人員拡充

学校に登校はできるが、教室に入ることができない児童・生徒を対象に、空き教室を利用して校内別室指導支援員が、きめ細かな学習支援や相談支援を行う。

- ・実施校：全区立小・中・義務教育学校(46校)
- ・支援員の配置：元教員や教員志望の学生、心理学を専攻している学生等
各校1日4時間x週5日x 40週× 1 名
※義務教育学校は2名配置
- ・利用実績（R7.2月末現在）

	児童数	生徒数
令和6年度	183人	91人

～多様な学びの場を提供し、誰一人取り残さない学びを目指す～

3

仮想空間を活用した 学習支援・居場所づくり

学校やマイスクール等にも通うことができない児童・生徒にオンラインによる支援を実施

- ・東京都のバーチャルラーニングプラットフォーム（VLP）事業への参加（110アカウント）、品川オンラインスクール、国際交流事業の実施
- ・利用実績：76/110アカウント（令和6年度）

4

ポータルサイトの運営 情報発信の強化

不登校児童・生徒やその保護者に対して、有益となる情報を発信し、どうすればよいか分からないという不安の解消を図る。

令和7年度は記事の更新や、各種保護者向けイベント等を新着情報として発信中

5

フリースクール等利用料助成事業

区立学校に在籍する不登校の児童・生徒がおり、東京都の「フリースクール等利用者支援事業（助成金）」を受給している家庭へ、フリースクール利用料の上乗せ助成を行う。

- ・対象期間 令和7年4月以降の利用料
- ・申請受付開始 令和7年7月以降
- ・支払方法 3か月ごとの実績に応じて、年4回支給



協議

